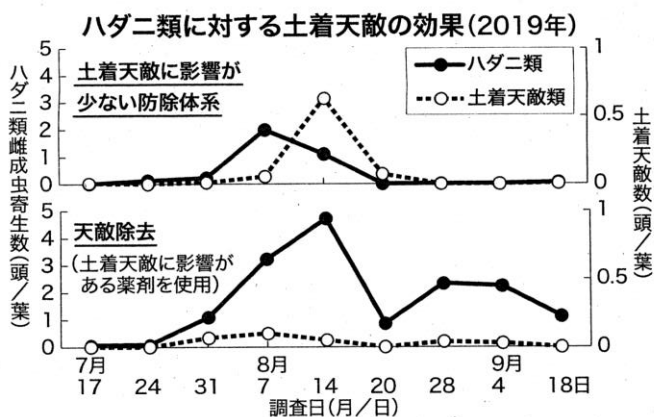


農業技術 フォーラム

イチゴのハダニ類密度抑制

土着天敵に影響薄い 化学農薬の施用有効

イチゴの生産現場ではハダニ類の発生が大きな問題となつています。本圃(ぼ)期では天敵農薬のカブリダニ類を利用した防除体系が普及しつつあります



が、防除効果を高めるためには、育苗期からハダニ類の発生を抑え、本圃に持ち込まないようにする必要があります。そこで、野外に広く生息しているハダニ類を捕食するハダニアザミウマ、ハダニタマバエなどの土着天敵を有効利用するため、土着天敵に影響が少ない化学農薬を使用した防除体系を検討しました。

その結果、土着天敵に強い影響がある化学農薬を用いた防除では、土着天敵の発生が少なく、ハダニ類の密度を抑えることができませんでした(図下段)が、土着天敵の保護を目的として土着天敵に影響が少ない化学農薬を使用した防除を行うと、一時的にハダニ類の密度は上昇しますが、後追いするように発生した土着天敵の捕食で、殺ダニ剤を散布しなくてもハダニ類の密度が抑制されました(図上段)。

なお、本試験では天敵に影響が少ない農薬として、チエス顆粒水和剤、コルト顆粒水和剤、フェニックス顆粒水和剤、BT剤などを使用しました。
(長崎県農林技術開発センター環境研究部門病害虫研究室主任研究員 高田裕司)